

昨日の農学部教授会との団体交渉において明らかにされた相互確認を全学交諸君に報告します。

我々農学部学生会は農学部校舎才三期互争に関する農学部教授会の過去の一連の姿勢とその努力を具体的事例をもって明確に解答することを要求した。

しかし我々の追求に対し、教授会は理事者の交代と学長の交代等々を理由をもち、我々の要求している意向をもすれば歪曲し、言葉さくごす憂柔ふたんの解答をしない対応しきれなくなったのである。我々はさらなる追求を行い、次に載けるような教授会の教育者としての責任と学向研究の立場を忘れた、なれあいの存在を明らかにしたのである。

1. 教授会は校舎才三期互争を「早くしてほしい」ととなえながらも、理事者と正式に交渉を行っていないためである。

2. 教授会として農学部校舎才三期互争の問題を理事会の議題に上っているかどうかということを知らなかった。

以上のことを暴露された教

5.30 農教教授会団体交報告！

授会は教授会として校舎八月着工を目ざして予告とるべき姿勢を明らかにしたのである。

すなわち、五月三〇日に行われた評議員会を承認されるであろう予算を基にして、このきびしい現状（理事会に対し農学部再編を理解してもらおうように積極的に関与する）を打破し、校舎八月着工を目指して努力すること及び六月六日まで（教授会席催まで）に校舎八月着工に関する諸々の障害を克服すべく教授会内部の意見一致をはかり六月六日、学生と共に農学部校舎八月着工を目指して、総決起大会を席催することに同意したのである。

とろう！
を農教授会と共に勝ち
六月六日の総決起大会
農校舎八月着工を！
スローガン！！

農学部学生会！！

6.6 総決起大会